

当別町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

当別町は、札幌市と境界を接し、札幌中心部から約15～25kmに位置しており、面積は、422.86平方キロメートル。人口（令和4年12月1日住民台帳）は、15,338人である。コミュニティバスは、スウェーデンヒルズ地区とJR太美駅を経由し、札幌市北区とを結ぶ地域間幹線路線とこれに付随するフィーダー5系統を確保している。地域間幹線路線については、通勤・通学・高齢者等の通院のほか、買い物などに利用されており日常生活に不可欠なものである。フィーダー系統は、JR当別駅南口で幹線と接続しており、市街地から離れている地区から輸送する青山線やデマンド交通として市街地予約型線を運行している。また、平成29年9月に開業した道の駅へコミュニティバスの路線を運行させ、道の駅への誘客や西当別地区の公共交通の充実を図った。交通弱者である子どもや高齢者の移動手段を確保することで、住民の住環境の向上、高齢者の行動範囲拡大による健康増進を図るほか、コミュニティバスを通じて環境問題への啓発も資することができる。一度失ってしまったバス交通を回復させるために5年の歳月を要したことを考えると、バス路線は容易に廃止すべきものではなく、町民の健康で安全な必要最低限の住環境を守るためにも、地域公共交通の中心であるコミュニティバスを確保することは重要である。

生活交通確保維持改善計画の目標

コミュニティバスの運行による住民サービスの向上効果を得るため、次の目標を定める。

青山線 年間利用者数を令和元年度実績の約70%とする。 目標 5,500人
市街地予約型線 年間利用者数を対前年比約10%を増加させる。 目標 4,051人
西当別道の駅線 年間利用者数を令和元年度実績の約60%とする。 目標 5,600人
車両減価償却費等国庫補助 交通弱者の年間利用者数を対前年比約20%を増加させる。
目標 3,800人

令和4年度事業概要

- 1 青山線① JR当別駅南口～とうべつ整形外科～みどり野会館 1回200円 平日7便 休日6便 運行日数364日（平日245日 休日119日） 運行回数1,214回
- 2 青山線② JR当別駅南口～とうべつ整形外科～青山会館 1回200円 平日のみ8便運行 運行日数245日 運行回数976回
- 3 市街地予約型線 JR当別駅南口～当別町内～JR当別駅南口 1回200円 平日のみ8便運行 運行日数245日 運行回数1,093回
- 4 西当別道の駅線 北欧の風道の駅とうべつ～JR太美駅～ヒルズE5-3-17 1回200円 平日9便 休日10便 運行日数364日（平日245日 休日119日）
運行回数1,698回
- 5 スターライト道の駅線 北欧の風道の駅とうべつ～JR太美駅～太美スターライト中央 1回200円 平日3便 休日3便 運行日数364日（平日245日 休日119日）
運行回数546回

地域公共交通の現況

- ・JR札沼線
当別駅、太美駅、北海道医療大学駅、ロイズタウン駅
- ・当別ふれあいバス
地域間幹線系統：あいの里金沢線
地域内フィーダー系統：青山線、市街地予約型線、
西当別道の駅線
- ・月形当別線

協議会開催状況

令和3年6月28日 第1回協議会を開催
主な協議事項：令和4年度地域内フィーダー系統確保維持計画他
令和3年10月12日 第2回協議会を開催
主な協議事項：令和3年12月1日付けダイヤ改正について他
令和4年1月5日 第3回協議会を開催
主な協議事項：地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価
令和4年2月17日 第4回協議会を開催
主な協議事項：令和3年度事業計画・予算案他
令和4年6月28日 第1回協議会を開催
主な協議事項：令和5年度地域内フィーダー系統確保維持計画他
令和4年10月10日 第2回協議会を開催
主な協議事項：令和4年12月1日付けダイヤ改正について他
令和4年12月20日 第3回協議会を開催
主な協議事項：地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価他

令和4年度事業の実施状況

- ・「とべナビ」アプリの運用、デジタルサイネージの運用
- ・小学生向けのモビリティ・マネジメント
- ・小中学生向け夏休み冬休み子ども定期券の販売
- ・当別中学校向けの市街地予約型線の利用意向調査
- ・利用者ヒアリング調査（車内ヒアリング）

【青山線】



【西当別道の駅線】

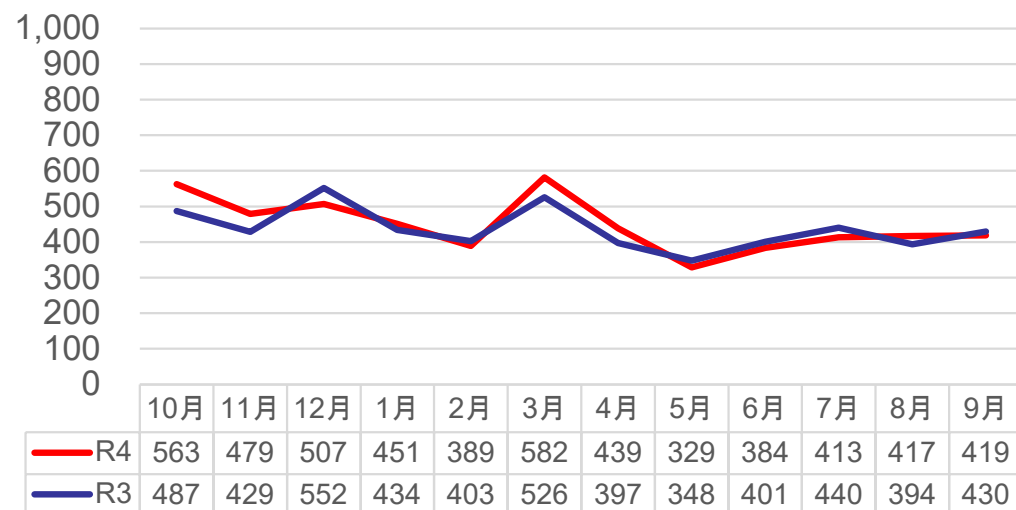


【市街地予約型線】

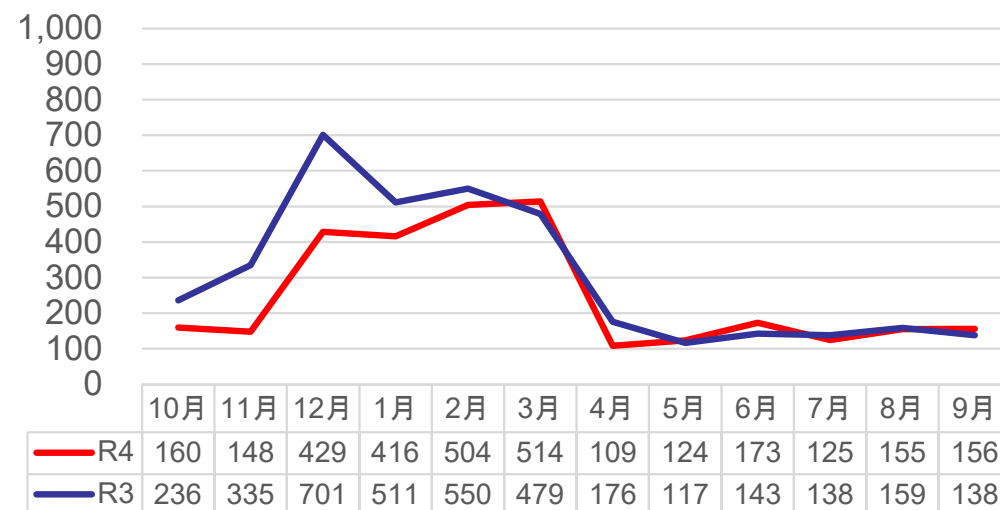


3) 利用実績

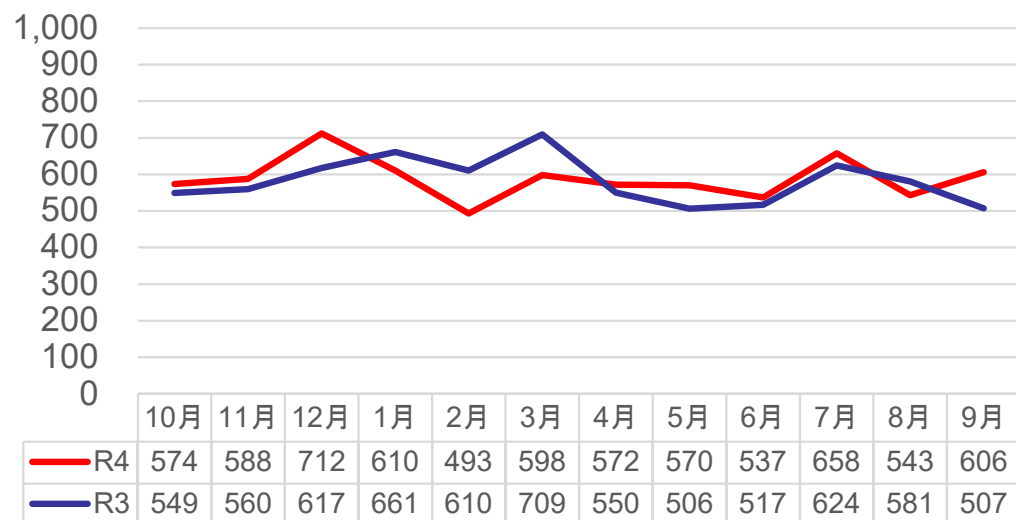
青山線



市街地予約型線

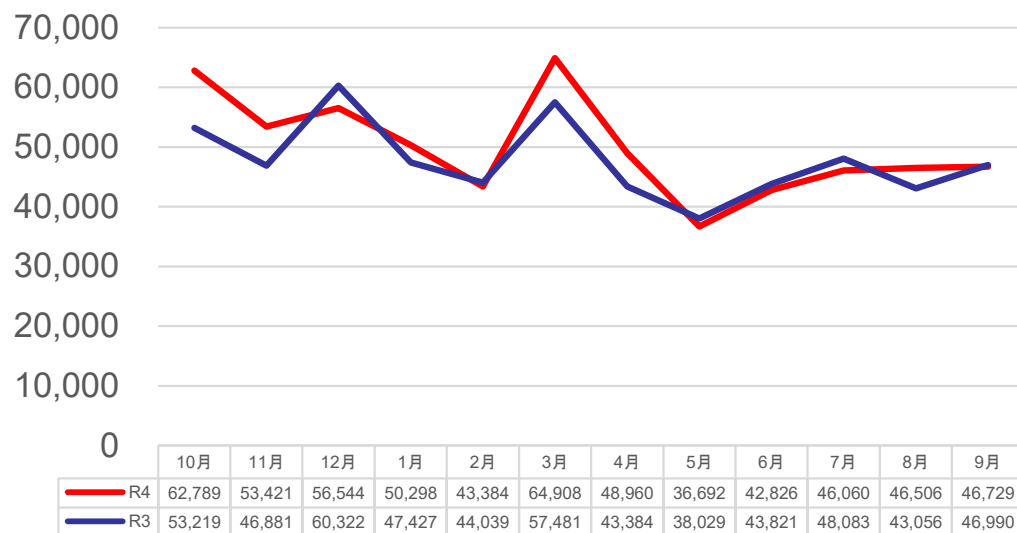


西当別道の駅線・スターライト道の駅線

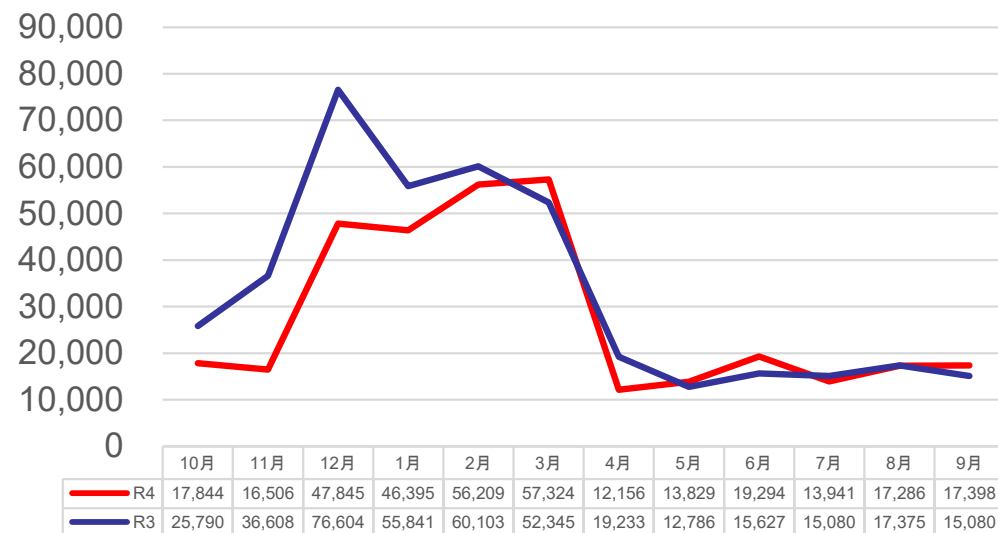


4) 収入実績

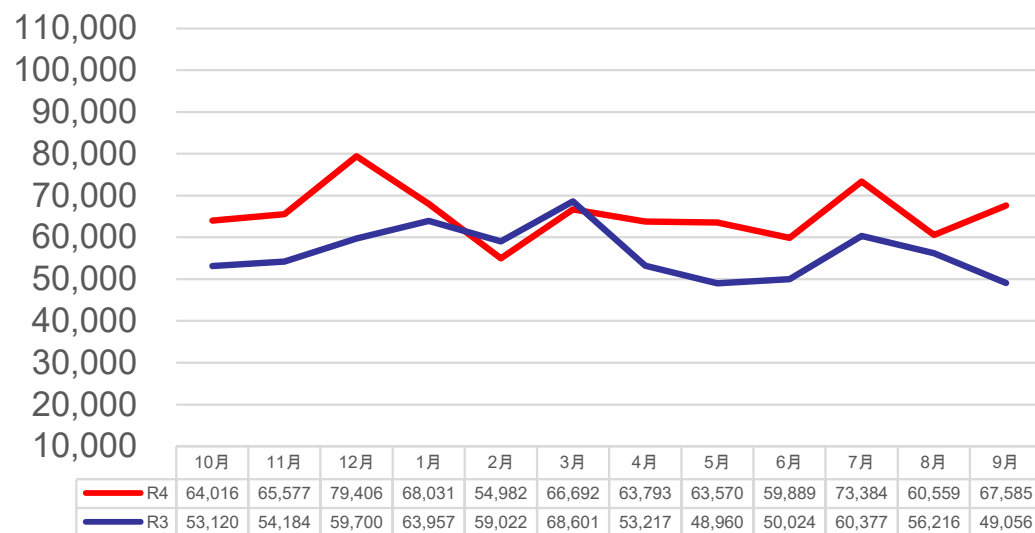
青山線



市街地予約型線



西当別道の駅線・スターライト道の駅線



5)事業実施の適切性

1. 青山線①②

事業が計画に位置付けられたとおり適正に実施されている。

2. 市街地予約型線

事業が計画に位置付けられたとおり適正に実施されている。

3. 西当別道の駅線、スターライト道の駅線

事業が計画に位置付けられたとおり適正に実施されている。

6)目標・効果達成状況

1. 青山線①②

年間利用者数 目標 5,500人 実績 5,372人

2. 市街地予約型線

年間利用者数 目標 4,051人 実績 3,013人

3. 西当別道の駅線、スターライト道の駅線

月間利用者数 目標 5,600人 実績 7,061人

4. 車両減価償却費等国庫補助

交通弱者の利用者 目標 3,800人 実績 1,778人

7)事業の今後の改善点

1. 青山線①②

新型コロナウイルス感染症の影響から回復傾向にあるものの、コロナ禍前と比べると利用者は減少しており、同時に人口減少も進んでいる地域であることから利用者の絶対数も減少しているため、ダイヤや運行形態の見直しについて検討する。

2. 市街地予約型線

運行形態や運行エリアの見直しについて検討するとともに、利用方法の周知や地域でのモビリティ・マネジメントを実施する。

3. 西当別道の駅線、スターライト道の駅線

目標は達成できたものの、新型コロナウイルスの影響による利用者離れが解消した訳ではないため、引き続きダイヤの見直し等、更なる利用促進に努める。

8)地方運輸局における二次評価結果

- ・ 自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響を受けたことにより、一部の系統では目標を達成することはできなかったが、現在作成中の地域公共交通計画及び利便増進実施計画に基づき、効果的な運行の見直し等更なる利用促進の取組を期待する。
- ・ 確保維持改善事業においても収支率といった事業効率の改善につながる目標設定をご検討いただきたい。